

アオダモ

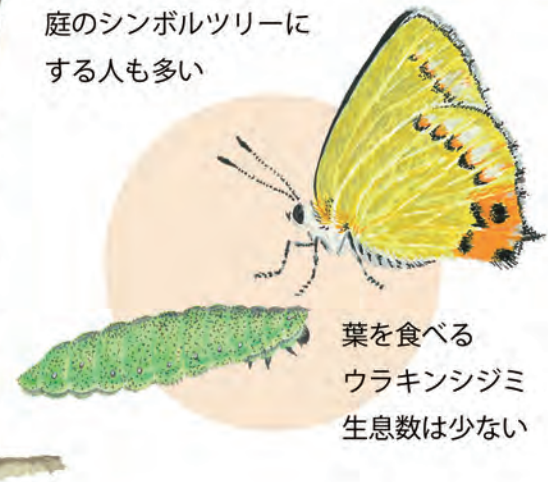
トドマツとの間を
行き来する
トドノネオオワタムシ
(雪虫)



モクセイ科
トネリコ属
樹高
10～15m



涼しげな立ち姿のため
庭のシンボルツリーに
する人も多い



葉を食べる
ウラキンシジミ
生息数は少ない

四季の観察ポイント

春



雄花

両性花

真っ白な花が
雪が積もったように咲く



実ができればじめる

夏



秋

熟した種子は風に乗って
散布される



数年に一度
豊作になる

冬



冬芽



樹皮は平滑で
白い斑点がある

アオダモは成長の遅い木で、成木になっても高さは10m位、胸高直径も30cm以下がほとんどです。
乾燥に弱いので湿気を含む肥えた土地を好みます。とても萌芽力（切り株等から新たに芽を出す力）が強く、幹が折れてもすぐに萌芽を発生させます（折れていなくても萌芽を出すこともあります）。
アオダモの「アオ」は樹皮を水に入れると青くなることから、「タモ」は材が粘り強いので「たわむ木」から名がきたといわれています。

リン子の絵日記

アオダモ

おじいちゃん
何して
いるの？

これはな、
ワシが初めて
もらった給料で
買ったアオダモの
バットじゃ。

昭和50年代、日本製バットのほとんどの材は北海道産じゃった。

多くはセンノキやヤチダモじゃったが、バット材として最適なのはアオダモじゃ。

特に雪が少なく寒さが厳しい日高や阿寒のアオダモは最高級なのじゃ



アオダモバットは粘りがあって割れにくく、軽量で振りやすい。そのため長年プロ選手に愛用されてきた。
しかし天然のアオダモは成長するまで60年もかかる。次第にアオダモの木はなくなっていった。
そこで近年、アオダモを植えて育てる活動が始まった。



数十年後、北海道が再び「バット王国」となるかもしれないの。
アオダモ植樹祭
大事にしてきたからピカピカなんだね。
まあのお
補欠でほとんど打てないからね。



アオダモとつながり

アオダモの材はとても粘り強く、木目もつまって曲げても折れないため、野球のバットの他、テニスやバドミントンのラケット材としても活用されます。
昔はマサカリの柄、雪の上を歩く時のかんじきにも利用されました。



アイヌ民族とアオダモ

アオダモは生でもよく燃えるため、アイヌ語で「山の神のたいまつ」の名をつけられています。

また樹皮を水に入れると青くなることから、染料にしたり、入れ墨にも使われました。